<table>
<tr><td colspan="2">会議名</td><td colspan="3">平成３０年度公民館運営審議会(第２回)</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td colspan="3">生涯学習課　北地区文化センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成 31 年１月 30 日（水）午前９時３０分～１２時</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">座間市役所５階　教育委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委員</td><td>１１名</td><td>その他</td><td>０名</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>３名</td><td>傍聴者数</td><td>１名</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td colspan="3">可</td></tr>
<tr><td colspan="2">内容</td><td colspan="3">出席委員
　座間市公民館
　　稲垣文野委員、吉泉幸子委員、西川麻里子委員
　北地区文化センター
　　木村由紀子委員、赤木みな子委員、中澤孝子委員、岩本真樹委員
　東地区文化センター
　　松岡たみ子委員、飯田由美委員、佐々木邦彦委員、倉田敦子委員
　事務局
　北地区文化センター清水館長、井谷主事、　東地区文化センター岡田館長

1 あいさつ　木村副委員長

2 議題
　(1)　研修報告
　①　第４０回全国公民館研究集会東京大会報告
　平成３０年１１月１日(木)に日本青年館を会場に参加した委員から研修報告が行われた。
　別紙報告書のとおり

　②公民館館長・公民館運営審議会委員等研修会報告
　平成３０年１１月９日(金)に山北町立生涯学習センターを会場に参加した委員から研修報告が行われた。
　講演テーマ
　・「水害と私たちの暮らし～自然環境と私たちの生活をまもるためにできること。」
　川の特徴を知ること、ハザードマップで確認、家族で１年に１回は相談すること。いくら避難場所が指定されているからと水が浸っているのにわざわざ行く必要はない等、今までの大地震や災害を通して話をされた。
　・「避難所におけるトイレの確保と管理」
　阪神淡路大震災から 3.11 の震災等数多くの避難所での生活で一番困ったトイレについて話を聞いた。
　災害用トイレを使い簡易トイレと携帯トイレを備えなければならな</td></tr>
</table>

	い。 　臭気対策、使いやすいものを選ぶ、携帯トイレの必要数一人いちにち平均５回トイレに行くとして換算。４人家族では４人×５回×最低７日=１４０回分が必要という計算になる。 　トイレの重要性を再認識した。 　報告書無 　③第６０回神奈川県公民館大会研修報告 　平成３１年１月１８日(金)に平塚市中央公民館を会場に参加した委員から研修報告が行われた。 　別紙報告書のとおり 3 その他 次回の会議予定と内容　平成３１年４月１７日(水)　事業計画等 各委員で意見交換 4 閉会

19，01，20

第40回全国公民館研究集会東京大会参加報告

記述：東地区文化センター公民館運営審議委員　佐々木邦彦

掲題大会に出席させていただきましたので、その概要について、以下の通りご報告いたします。

1，日時：平成30年11月1日・2日
2，会場：日本青年館ホール
3，大会テーマ：「公民館がひらく日本の未来
～地域性・個別性を活かした新しい公民館活動を！～」
4，プログラム：1日目 11／1　特別講演・シンポジウム（パネルディスカッション）
2日目 11／2　合同表彰式
※2日目は合同表彰のみであったため、座間市3館は参加しておりません。

以下、特別講演とパネルディスカッションについてその概要をご報告いたします。

1，特別講演　13：05～14：50

講師　池上彰氏　　講演タイトル「民主主義と公民館運動」

＜1＞講演概要

- 最近、民主主義の危機と言われることが多い。トランプやブラジル大統領の例などから、世界はこれからどうなってゆくのかという不安から来るのだろう。
- このように困ったらどうするという時は、初心に返ることだろうと考える。
- 公民館運動とは何かを考えるとき、それは「公民館の歌」によく表れていると思う。73年前、郷土をおこす喜び、そういう思いから、公民館に集う、コミュニティを作る、歌にある「自由の朝をたたえよう」というフレーズは、自由の喜びを表しており、このことが公民館活動の原点・目的ではないか。
- 民主主義は本当に素晴らしいのかという疑問に、イギリスのチャーチルは「あらゆる制度よりはまだましだ」と答えている。
- 民主主義的手続きによって制定された、もっとも先進的と言われたワイマール憲法によってヒットラーが選出され、ナチスの誕生という思いもよらない結果を招くことになった。自分たちが作ってゆくのが民主主義なのに、「誰かがやってくれる」というお任せ民主主義に陥った結果でもある。
- 自分たちで民主主義を作ってゆく必要性を語った例は、イギリスのEUからの離脱があげられる。若者の投票率が低かったことも一因だが、投票に向かった「昔はよかった」式の層が生んだ結果である。移民の問題で、医療制度のただ乗りを主張する層が投票に向かった例でもある。
- ユダヤ人の弾圧がどうせ変わらないと思うことのリスクの結果であることを学

んだドイツは、少数異民族の受け入れを決めたが、旧東ドイツの対比で見ると極右勢力の台頭など反応は微妙に異なる。

- こうしたドイツの実態を見ると、不断の努力がないと民主主義は破壊されると言うことを物語っている。
- このことは、選挙制度によって民主主義が左右されると言うことでもある。インテリだけに選挙を任せた間接選挙によって、国民の大多数がヒラリーを選んだのにトランプが当選した。アメリカは本当に民主主義の国なのか？
- 完璧な人間はいない＝選挙結果に間違いが起こりうる＝民主主義には必ず任期がある。権力が長続きしないような仕組みが民主主義でもある。
- ブータンと言う国がある。国王にすべて任せたいという国民に対して、国王は「国民に権力を譲る、君たちが選ぶのだ」と宣言した。
- 民主主義は間違えるものだが次の選挙で直せばよい＝民主主義を根づかせるためには、政権交代がスムーズに行われているかどうか、お任せではいけないと言う課題が浮かび上がる。
- お任せではいけない＝それぞれの地域のコミュニティで解決＝みんなが参加して作り上げるものが大事である。
- そのようなことを考えると、それぞれの民主主義を作り出すための公民館は活動の拠点である。
- 社会全体で考える社会教育から、最近の考えかたとして、ひとりひとりの学びとしての生涯学習の力をつけることも大事だけれど、社会のまとまりに繋がる、地域全体で人々を支える仕組みづくりが重要になってくる。
- 子どもは親が育てればよいというアメリカのホームスクーリングから、社会が支える＝地域での支える仕組み作りがへと変わりつつある。
- 社会で支える仕組み＝公共とは何かと言うことを考えるとき、公民館の役割りとは何かという答えがここにあるのではないか？
- 社会のみんなのためになる考える場（広場の役割）それが公民館であり、民主主義づくりのためのひとりひとりの思いがあれば、公民館づくりに繋がるのではないか。

＜２＞佐々木所感

- 民主主義の危機については同感だが、なぜ社会がそうなってゆくのか、階級社会にあった同じ価値観、同じ求めるものが、大衆社会になった時に大衆はよりどころを失って望むところがなくなったとき、どこに向かうのか、そこには強い権力者に託し、お任せ主義が横行するとともにユダヤ排斥と同様な敵を作り、彼らに対して徹底的な不寛容を示す流れは、全体主義そのものではないか？そこまで言及しなければ、単なる評論家の域を超えないと思う。申し訳ないが人気ジャーナリストの限界を感じた。

3，パネルディスカッション　１４：５０～１６：５０

池上　彰（ジャーナリスト）、塩見　みづ枝（文科省総合教育政策局社会教育振興総括官）、牧野　敦（東京大学院教育研究科教授）、吉田　博彦（特定非営利活動法人教育支援協会代表理事）、村松　真貴子（全国公民館連合会理事、フリーアナウンサー）

以下、発言者のコメントのみ記します。

塩見：生涯学習・社会教育が渾然としているを踏まえて、公共施設の組織的改編が必要ではないか？

池上：フローからストックが大切、自分はラインもツイッターもやらないけれど新聞１３紙を読みこなしている。

牧野：公民館を組み直す必要があるのではないか？民主主義が壊されている状況において、公民館の役割は改めて見直すべきではないか？人ごとを自分のこととする想像力をもっと自由に、―好き勝手ではなくみんなと一緒に自由にに考える、想像力、そしてこの国をどうするのかを議論することが大切ではないか？

吉田：生涯学習と社会教育との関係が渾然としている。これまでの生涯学習が深い理解の元に成り立っているのか、社会教育を理解しないまま、生涯学習＝個を強くすると言う狙いだけが先行していないか？個人の要請に基づくだけでよいのか、社会の要請に基づいて、行政が社会教育を考える上での空間が必要ではないか？

村松：本日は新たな試みとして、スマホで北海道・島根・沖縄を全国中継をしながら、現場の声なり取り組みを、紹介しながら議論をしてゆきたい。

札幌新陽高校の声・・・公民館が本当に必要なのですか？

島根・益田・・・若い人とシニアをつなぐ「語り場」、魅力的な人がいないという声に対して、公民館が人と人を結びつける役割があるのではないかと言う生涯学習課長の声

沖縄・那覇・・・公民館７館、公民館がほしいという声が強い。パーラ公民館？何もしていないがワークショップや思ったことの発信、人と人のつながりを求める場として、公民館を求める声が強い。

塩見：社会教育がなぜ必要かを押さえることが重要と考えている。学び続けることを支える、いろいろな人の交流を深めてゆく、間違っていることを知る、取り残されてゆく人たちをみんなで支えてゆく、学びだけではなく防災などの地域課題をひっぱってゆく気概・・・こういう点が公民館が変わったと言うことではないか？

村松：気楽に立ち寄れる雰囲気作りも必要。

池上：公民館はカルチャーセンター化しているのではないか。依存なのか自立化なのかは大事な視点と思う。

牧野：都市型公民館は地方に比べて、講座・サークル化が多くサービスを提供していればよい（お任せでよい）と言うところが多い。
一方で公民館が出て行くスタイルとして、異世代交流が盛んなところもある。公民館と言う言葉自体が古くさく、待っているだけとの印象が強いが、自分の居場所作り→人が集まる場所作り→お任せ依存から自立、頼れる環境作りが必要ではないか？お茶の間のような雰囲気作りも必要。

吉田：サービス提供を前面に出したことにより、住民がサービス提供を求めることは当たり前であり、特に都市型公民館の行政の責任でもあると思う。
コミセンに社会教育主事を配置することとその社会教育主事が公民館活動にとってどういう言う役割を担うのかと言うその違いを、もっと明確ににする必要がると思う。公民館であるがゆえの社会教育主事の役割があるはず。

村松：居場所を作る、＝生きがいに繋がる、公民館として冥利に尽きる。

札幌（中継から）
：社会教育・地域づくり、ボランティア＝地域のつながり、
社会教育・地域づくりを学校の戦略としていることはすごいと思う。

益田：学校の空き教室を公民館化した。若手が中心になることが街作りの中核になると言うことがよくわかった。

沖縄：移動公民館の成果＝学校とのつながりが地域活性化に繋がることの実証だと思う。

まとめ　子どもたちの貧困が学力低下に繋がっている。一方で地域のおじさんたちが頑張れと言えば、人間関係の中で子どもたちの頑張りに繋がっている。古里をきちんと持つことが公民館活動の原点ではないか？コミュニティ・地域防災など社会教育が進むと自然に街作りが生まれることになるのではないか

佐々木所感

単なる中央（東京）だけでの議論ではなく、現地の公民館や若い高校生とのスマホを活用した中継は、素晴らしい企画だった。このような公民館の置かれている現場の声や実態を中央に届ける試みは、とても大切と思う。現場を抜きにした行政本位のあり方に警鐘を発したと思う。
特に札幌の高校生が発した「公民館はなぜ必要なの？」という疑問は、ぼくらにとって、重く受け止めるべき問いではないか？

以上

19．01，24

第60回神奈川県公民館大会参加報告

記述：東地区文化センター公民館運営審議委員　佐々木邦彦

掲題大会に出席させていただきましたので、その概要について、以下の通りご報告いたします。

1，日時：平成31年1月18日(金)　13：00～15：00
2，会場：平塚中央公民館　大ホール
3，大会テーマ：
「公民館構想から70年を経た今、次の時代に求めていく公民館像とは」
～私の「できる」が、あなたの「できる」に。ともに進もう、世代を超えて～
4，大会次第：
＜1＞開会
＜2＞ウエルカムライブ
＜3＞表彰ほか
＜4＞基調講演
＜5＞パネルディスカッション
＜6＞閉会
5，表彰について
式典の中で表彰式がありました。この中で優良公民館表彰(7館)として東地区文化センター(岡田館長)が、また職員等功績者表彰(1名)として東地区文化センターの安藤咲枝さんが、更に永年勤続表彰(24名)として北地区文化センターの片野みち子さんがそれぞれ表彰されました。
本当におめでとうございました。

6，基調講演概要報告
テーマ：「公民館、そこは人が育つ拠点」
～社会教育施設としての公民館を考える～
講師：小池　茂子氏
学校法人聖学院大学　人文学部児童学科教授

- 世界に類のない公共機関として、昭和21年全国の各町村に設置されたが、戦後地域社会の復興(食べるだけではなく、心や生きる望みを託した地域のつながり)を願う場所でもあった。
- 社会教育法ができて70年、公に求められる機能も変わってきている。生きる力や復興という課題から、個人的趣味を主とする流れに変わってきている。生涯学習が主流になるにつれて、地域でのつながりよりも個人としての自己満足が中心になってゆくと、民間の教育産業とどのような違いがあるのか、社会教育機関で

あることを忘れてはいないかという指摘もされている。

・社会教育終焉論＝成熟した市民は「オシエ・ソダテル」対象ではあり得ない。つまり、市民の未熟を前提とした社会教育行政は終わったのではないか？

・このことから、社会教育行政による公民館ではなく、市民参加による自主管理のコミュニティセンターという提案でもあった。

・「社会教育と生涯学習とは同じなのか」と言う疑問

生涯学習＝自ら望んで生涯学ぶ、ある経験を踏まえてＡと言う状態からＢと言う状態に変容することでありこれが維持されると学習となる。学習は学びの自由でもあり、あなた次第で決まる。

社会教育＝今ある状態から目標・あるべき姿(例えば人づくり、まちづくり)にある意図を持って近づける、働きかける、学習を支援するのが教育であり、教育的価値による「指導された学習」でもある。

・行政にとって、生涯学習の文化、つまり「もっとたくさん、もっと便利、もっと心地よく」という消費サービスの提供にとどまってよいのか？地域課題(人づくり、まちづくり)と言う目指すべき姿を明確にリードしてゆくのが、行政としての社会教育ではないか。

・学習に関する自発性は尊重されるべきだが、住民の自発性に委ねているだけでは「学習格差」は広がる。個人の要望と社会の要請に応える学習機会の提供とともに社会教育の教育的機能を発揮する必要がある。

・若い人にとって「公民館って本当に必要なんですか」というシンポジウムに投げかけられた質問。(18年11月の全国公民館研究集会)中高年の大人たちが生涯学習をやっているところでしょ。小さい頃、イベントで行ったことがあるけど用事もないのに入っていいのかさえもわからない。

・中高生の理想の生き方＝家族と幸せに生きる、やりがいのある仕事・・・自分自身の満足を重視した自己充足的傾向、こういう世代を公に近づけることの困難さ、地域課題・社会的課題と言っても集まるわけがない。

・お金をかけないで友達とだべっていられる場所。スマホの充電、Wi-Fiができるなら、公民館による。

・事例紹介

＊平塚金目公民館→学校と住民の連携、きっかけは楽しいことから

＊さいたま内野公民館→若い人が運営に参加できる企画(夏休みの中高生ボランティア、講師アシスタント)によって将来の地域リーダーを目指す動きが活発化

＊茅ヶ崎松林公民館→地域と学校の連携は住民や団体が学校に出かけて奉仕することだけではない。学校以外のところでの教育の場に子どもたちを送り出すと言う形がある。夕食支援と学習支援を通じた「第３の居場所づくり」。主催者と参加者のwin-winの関係を作り出す、相互のコーディネータ機能が大事。

・さいごに・・住民の学習活動は何から始めてもよいが、社会教育という「教育的視座」を持った支援で、学習者を自己利益の追求にのみ終わらせない、公共的課題解決に主体的に関わってくれる成熟した市民に導くと言う信念が必要。

7，佐々木所感

・社会教育と生涯学習の違いについては、モヤモヤ感が払拭できたような気がする。ただ教育的視点を持つということが、学習者の自主性や自立性を阻害しないような配慮が欠かせないと思う。公民館の関係者は「オシエ・ソダテル」というスタンスではなく、学習者の伴走者に徹すると言うことを忘れてはいけないのではないかと感じる。

・また、若者と公民館の関係については、頭が痛いテーマと思うが、若者を中心とした講座や企画が単発ではなく、継続的なシリーズとしての展開やそのことの運営を若者自身に委ねるなどの試みが必要ではないか？要するに座して待つだけでは、若者は公民館に寄ってこないと言うことは間違いがない。

8，パネルディスカッションについては、マイク音量の関係かどうかわかりませんが、一部の発言者について聞き取りが悪く記録が不可能でした。資料の配付もなかったので報告は割愛させていただきます。ご理解ください。

以上

第60回神奈川県公民館大会

平成31年1月30日　　No. 1

平成31年(2019年)1月18日(金) 於;平塚市中央公民館　　参加報告;柳下 洋昌

〈テーマ・大会趣旨〉

「公民館構想から70年を経た今、次の時代に求めていく公民館像とは」

～ わたしの「できる」が、あなたの「できる」に。共に進もう、世代を超えて ～

昭和21年(1946年)の文部次官通牒における公民館設置構想から70年が経ちました。
公民館は、これまで住民自治を具現化する拠点として、地域住民にとって最も身近な学びの場・交流の場として整備されてきました。また、昨今では、人づくり、地域づくりに貢献するという観点から、公民館は、地域住民の絆を深め、活力あるコミュニティの再生を推進する役割を担っています。
住民の自治力を高め、社会教育の中核を担ってきた公民館に求められるものが、多様化する今、その機能を改めて検証し、原点に立ち戻り確認しながら、将来を見据えていく必要があります。
本大会では、これまでの公民館の70年を踏まえながら、次の時代に求めていく公民館像を様々な世代の皆様と描いていきます。

1. 式 典

・表彰（座間市のみ）　（敬称略）

①優良公民館表彰　座間市立東地区文化センター　他 7館

②職員等功績者表彰 安藤 咲江 氏(東地区文化センター)　1 人

③永年勤続表彰　片野 みち子氏(北地区文化センター)　他 24人

2. 基調講演　講演内容のあらまし

・テーマ :「公民館、そこは人が育つ拠点」

～社会教育施設としての公民館を改めて考える～

・講 師 : 小池 茂子 氏　学校法人聖学院大学 人文学部児童学科教授

神奈川県生涯学習審議会 副会長

1.公民館の構想

昭和21(1946)年 文部次官通牒

公民館は全国の各町村に設置され、此処に常時に町村民が打ち集まって談論し読書し生活上産業上の指導を受けお互いの交友を深める場所である。 それは謂わば郷土に於ける公民学校、図書館、博物館、公会堂、町村集会所、産業指導所などの機能を兼ねた文化教養の機関である。それは亦青年団婦人会などの町村に於ける文化団体の本部ともなり、各団体が相提携して町村振興の底力を生み出す場所でもある。

この施設は上からの命令で設置されるのではなく真に町村民の自主的な要望と努力によって設置せられ、又町村自身の創意と財力によって維持せられてゆくことが理想である。

1.寺中作雄(当時の文部省公民教育課長)が記した公民館の機能

(1)、公民館は社会教育機関である。

(2)、公民館は社交娯楽機関である。

(3)、公民館は町村自治振興の機関である。

(4)、公民館は産業振興の機関である。

(5)、公民館は新しい時代に処すべき青年の養成に最も関心を持つ機関である。

2.社会教育は終焉の途を辿っているのか?

「松下圭一氏の社会教育の終焉論」の概要(『社会教育の終焉』 昭和61年筑摩書房より)

昭和35年の1960年代前後からの「都市型社会」への移行、という日本の文明史的転換によって、成熟した市民が現れるため、オカミが国民を「オシエ・ソダテル」タイプの社会教育は古い時代の遺物で国民の高学歴化・市民文化の成熟という状況下では、社会教育行政は不要である。

地域施設でいえば、社会教育行政による公民館ではなく、市民参加による自主管理のコミュニティセンターをという提案でもあった。

3.今日生涯学習推進における社会教育の存在意義

「社会教育と生涯学習は同じなのか ?' (よくある質問)

・「生涯教育について」 中央教育審議会答申 (平成56年 1981年)

「…各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じておこなう」

・改正教育基本法 (平成18年 2006年)

第 3 条 (生涯学習の理念)

「国民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」

→「学習」とは

経験を踏まえ、意識・態度・行動を変容させること

(新しい知識・記述を獲得すること)

→「教育」とは

人間の成長・発達を目指して行われる、意図的な働きかけ。

当該社会の教育的価値による「指導された学習」

第 12条 (社会教育)

「社会教育」はあくまでも「教育」である。

人々の成長・発達の可能性、自主性・自発性を前提としながらも、「よくしよう」という意図があり、(人づくり・地域づくり…)そのために効率的な方法を用いる営みといえる。

4.生涯学習のまちづくり

人々が充実した人生を目指して、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学習する事ができ、その成果が社会に適切に評価されるような『生涯学習社会』実現を目指して諸条件を整備していくこと。

↓

学習に関する自発性は尊重されるべきであるが、それだけでは「学習格差」が広がる。自発性からなる学習に委ね、自己満足的な学習に終始する者も多く、これに対し税金を投じる価値があるのか ?

↓

個人の要望と社会の要請に応える学習機会の提供

➡ 社会教育の「教育」的機能を発揮する必要がある。

21世紀の日本社会

- 少子化による人口減少と高齢化の進展
- 国・地方を通じた厳しい財政状況
- 都市と地方間の格差の拡大
- 東京への一極集中
- 地方コミュニティの脆弱化

➡ 住民同士の絆を取り戻さなければならないという危機感は高まっているものの、必ずしも住民の自立意識や地域活動への参加意欲に結びついているわけではない。

⬇

地域社会を築き上げてきた人々が有している潜在力の掘り起こしが必要

5.社会教育の役割への期待

住民が誇りと愛着を持つことが出来る活力に満ちたコミュニティづくりのためには、人々の意識・行動力に関わる点が大きい

⬇

人々の意識が変わるのをただ待つだけでなく、実践を伴った「学習」を意図的に提供していく必要がある。

松下氏『社会教育の終焉』への反論

・松下氏のいう、国民主権の条件である政治主体、文化主体的としての市民は、社会が都市型社会へ変貌することで一足飛びに成熟が図られるわけではない。

⬇

・市民がどのように成熟し、いかに形成されていくかを問い続け、「成熟した市民」という未完の可能性に少しでも近づけるようにそれぞれの成熟の度合いに応じた支援が必要になるということがいえる。ここに、社会教育の存在意義や役割があるといえる。

6.「公民館って本当に必要なんですか ?」

北海道札幌市在住の高校生から、基調講演者の池上彰しに投げかけられた質問

『中高年の大人たちが集まって、生涯学習? をやっているところでしょ。小さい頃にはイベント等で行ったことがあるけれど、用事ないのに入っていいのかさえ分からない」 …というのが若者たちの実感。

中・高生の理想の生き方 （青山学院大学総合研究所 による調査）

設問 次の中であなたが理想とする生き方はどれですか。1番目～3つまで選びその番号を選んでくださし

（設 問）	（1885年昭和60年）	（2005年平成17年）
1.お金をもうけること	1．5ミリ.家族と幸せに生きること	1.家族と幸せに生きること
2.高い地位につくこと	2.自分の可能性を試す	2.仕事に生きること
3.有名になることが	3.趣味を楽しむこと	3.趣味を楽しむこと
4.仕事に生きること	4.お金をもうけること	4.お金をもうけること
5.趣味を楽しむこと	5.仕事に生きること	5.自分の可能性を試す
6.社会に貢献すること		
7.家族と幸せに生きること	⇒自分自身の満足を重視した自己満足的傾向	
8.自分の可能性を試す		
9.その他		

公民館利用の有無と利用の目的

・公民館へ行ったことがない	31%
・学校の行事や授業での見学	28%
・サークルや団体での利用	23%
・公民館の講座・事業に参加	17%
・講座・事業・学校以外の目的	12%
無回答	2%

公民館事業の内容で、参加してみたいもの

・スポーツ	55%
・料理など食育	41%
・社会参加活動・ボランティア	27%
・パソコンなどの操作	27%
・小物・アクセサリー作り等工作	24%
・メイクアップ	20%

イベント・趣味等の情報の入手先

・インターネットのウェブサイト	56%
・ソーシャルネットワーク	37%
・家族・友人・知人から	36%
・テレビ	21%
・新聞	4%
・市報	8%
・チラシ・ポスター	18%

参加したい場所に求めること

・自宅や学校から近いこと	51%
・駅やバス停から近いこと	36%
・施設が使いやすいこと	27%
・料金がかからない(やすい)こと	43%
・スタッフが親切なこと	27%
・託児のサービスがあること	3%
・特にこだわらない	4%

自己満足的傾向の若者たちを、公民館活動に取り込むには、きっかけは楽しいことから！
顔なじみになったら、講座やイベントに誘う
雑談の中でゼミ生が教えてくれた

「こんなサービスがあったら若者は公民館に寄る」

・お金をかけないで、友達と一緒にだべっていられる場所がある
・スマホの充電ができたり、無料でWi-Fiが使えたら尚うれしい（「実際無理だろうけど…」との）

若者たちと一緒に取り組んでいるところの紹介

・通学合宿；平塚市立金目公民館
企画運営金目中学校区地域教育力ネットワーク

・さいたま市立内野公民館
『夏休み子どもHappy公民館　中・高生ボランティア」
近隣の2小学校2中学校と事業を連携し、イベントを実施し、講師アシスタントを募集している。
ねらい;普段公民館を利用しない世代を公民館に呼び、将来的に地域のリーダーになること
特別支援学校の児童・生徒に向けた事業を開催、又、保護者対象の講座を開催
講座終了後は、その保護者たちが利用団体となり、公民館を拠点に活動している。

・茅ヶ崎市立松林公民館
松林地区まちぢから協議会子ども部会
「ふくろう塾」夕食支援と学習支援を通じた『第3の居場所づくり』

7.「地域と学校の連携・協働」の推進を考える上で重要なこと

・地域の住民や団体が、学校に行って子供たちの為に奉仕するだけが「地域の連携ではない。」
・「学校の外で行われている組織的な教育活動の場に、子供たちを送り出す」という形があるということを忘れてはならない。
・(学校に居場所を作りづらい子どもの居場所作りや、異年齢集団における活動、子供たちが親や学校の先生でない大人から褒められたり叱られたりする機会を社会教育は提供できる。)

公民館に求められるキーワード　「つなぐ」そして「活かす」

・行政の自前講座だけ、あるいは公民館の貸し館活動等による住民の自主グループに提供するだけではなく、民間の事業や学校教育にも目を配り、それらとの連携によって、主催者と参加者が「Win-Winの関係」を作り出すことが出来る。

・学習機会を作り出し、そこでの学習の成果を次のステップ(公共的視点をもったもの)につなげる

支援　⇒　住民が元気になる(学習を通じた喜び、誇り)

⇒　彼らの力をまちづくりに活かす

住民の学習活動は、何から始めてもよい。

・それを社会教育という「教育的視座」をもった支援で、学習者を自己利益の追求のみに終わらせない、公共的課題の主体的に関わってくれる成熟した市民に導くという確固とした信念をもって、住民と共に汗をかく支援を公民館事業に携わる職員は行っていく必要がある。

・その意味でも、住民との窓口になって対応することができる社会教育の専門的職員の配置や、公民館をはじめ社会教育行政に携わる職員の専門研修は不可欠といえる。

・生涯学習推進体制を教育委員会が主管する体制から、首長部局に移管する流れが加速している。

いずれにせよ、「教育」的見地からのビジョンをもった生涯学習推進という視点を見失ってはならない。

以　上

休憩をはさんでパネルディスカッションが行われた。

テーマ　「公民館、次の70年」

～情報発信から考える。若者が行きたくなる公民館～

パネリスト	聖学院大学人文学部児童学科教授	小池　茂子　氏
	東海大学理学部数学科　4年	田中　夏喜　氏
	東海大学教養学部芸術学科　2年	紅谷　綾音　氏
	平塚市立中原公民館長	加藤清二郎　氏
	平塚市立松が丘公民館主事	大野　聡志　氏
	平塚市立なでしこ公民館主事	高橋　宗　氏
コーディネーター	平塚市社会教育委員会議副議長	鈴木　奏到　氏

東海大学の方が公民館のフェスティバル行事に参加して、「公民館だより」を作って自治会を通じて配布された。

SNSを使って公民館情報を伝えた

大学側も、地域活動をしたら単位が取れるとのこと

以下省略させてください。